



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

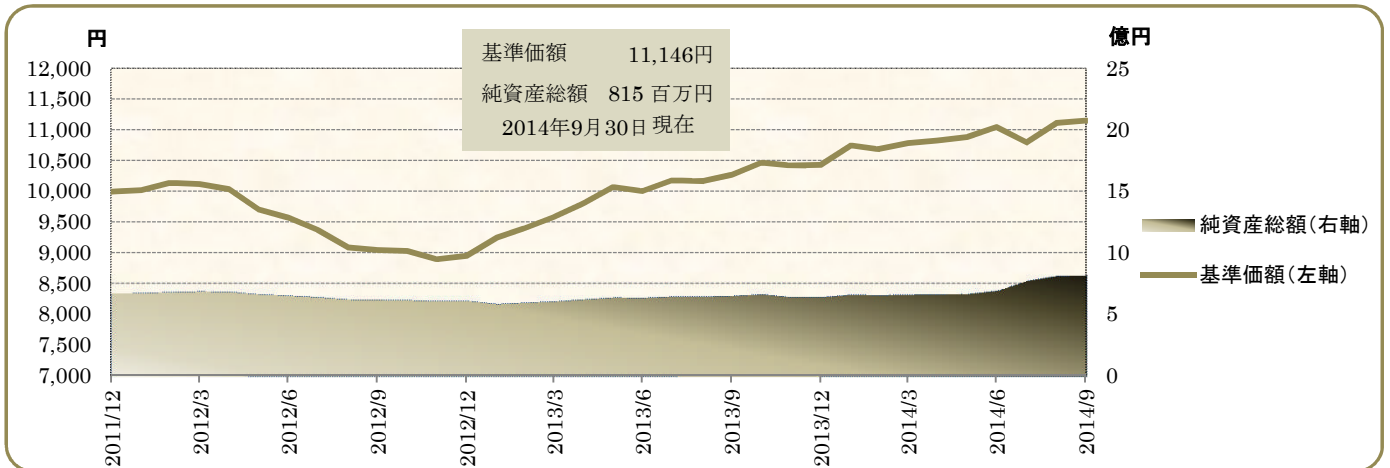
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年9月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後、税引前)

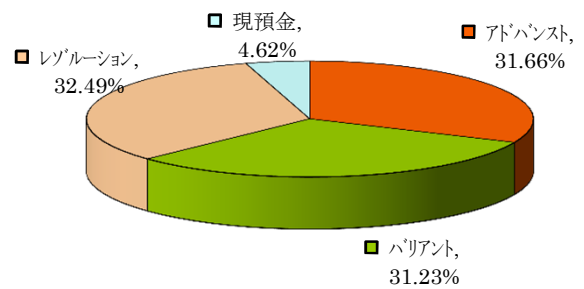
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%				6.93%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2014年9月30日	
基準価額:	11,146円	対前月比 38円
純資産総額:	815百万円	対前月比 +2.8百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.94%
基準価額騰落率	6ヶ月	3.41%
設定来	ファンド	11.46%
基準価額騰落率	TOPIX	83.30%
	日経平均	92.50%

投資対象ファンドへの資産配分 (2014年9月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後、税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%				7.02%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%				5.04%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%				19.43%
アドバンスト	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%				13.93%
パリアント	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%				25.72%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスト	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
パリアント	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* アドバンストとパリアントの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

9月の株式相場は、日経平均で4.86%上昇の16,173.52円、TOPIXで3.78%上昇の1,326.29ptとなりました。急速に進んだ円安ドル高を受けて外需株が買われ、年初来高値を更新しました。

上旬から中旬にかけては、内閣改造をきっかけにGPIFによる外債投資増加の思惑が強まったこと、FOMC委員の政策金利見通しが上振れ米金利の先高観が意識されたことから、円安ドル高が進行し大型輸出株主導で上昇しました。一方で、4～6月期のGDP2次速報値が下方修正されるなど国内の景気指標が悪化し消費税引き上げ後の消費落ち込みが確認されると、内需関連株は伸び悩みました。

下旬は、中東の地政学リスク等を嫌気し欧米株が下落したことや香港のデモの影響、中国経済の減速懸念などから足元で上昇していた

銘柄を中心に下落する局面があったものの、1ドル109円台まで円安ドル高が進行したことを受けて、TOPIX、日経平均とも年初来高値を更新し、約6年ぶりの高値水準となりました。

東証一部の1日当たり売買代金は、6カ月ぶりに2兆円を上回りました。

需給面では、外国人・信託銀行が買い越しとなりました。信託銀行は週ベースで9月第3週まで7週連続、月ベースでは5カ月連続の買い越しとなり、年金資金の流入が続いているとの見方が出ました。

セクター別騰落率では、輸送用機器、機械、電気機器、保険業、電力・ガス業が上位となり、海運業、石油・石炭、パルプ・紙、サービス業、水産・農林業が下位となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【レバリューション】

＜ファンド運用状況＞

9月の株式市場は、2ヶ月続いた小型株の優位から大きく反転し、一貫して大型株が優位に推移しました。一方、月前半に向けて、バリュエーション銘柄の上昇が目立ち、これまで局地的に上昇していた高バリュエーション銘柄も一服する展開となりました。

ポートフォリオは、医薬、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターを大きくアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

個別要因により業績堅調なJマテリアル(6055)やJCU(4975)などのロングがプラス寄与し、一部テクノロジー株のロングがマイナス寄与となりました。

ショート銘柄のプラス寄与が少なく、小型株の低調さが見られたものの、割安銘柄のロングを中心としたプラス寄与が大きく、月を通して収益積み上げを計ることが出来ました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

外部環境のリスクを意識しながらも、底堅い相場展開となっています。

一部バリュエーションの見直しも見られはじめ、極端に売買回転率の高い銘柄が買われるようなファンダメンタルから乖離した値動き修正されつつあります。

一方、引き続き局地的な小型株への買い意欲は強く、割安銘柄見直しによる短期的な収益チャンスは継続していると考えます。

足元では、第2四半期決算に向けた銘柄選別の動きも見られ、表面的なバリュエーション格差が拡大しつつあります。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。

成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

【アドバンスド】

＜ファンド運用状況＞

9月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.11%でした。。円安が進行したことで海外売上比率の高い割安銘柄の上昇や食品・家庭用品セクター内の割高株の下落によりプラス収益に貢献しましたが、TOPIX指数入れ替えに伴うトレーディングでマイナスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではドンキホーテHD(7532)、トヨタ(7203)、ショートポジションではコココーライストジャパン(2580)、カカココム(2371)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

10月の株式市場は横ばいを予想します。米国株式はQE(量的緩和)終了により高値警戒感が強まっていることや国内マクロ指標が弱含みで推移していることから上値の重い展開を予想します。一方で日銀の追加緩和やGPIF改革も期待されることから下値も限定的であると考えます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用したファンダメンタルズ分析に加え、ペアトレーディング戦略、インデックス入れ替えに伴うイベントドリブン戦略による銘柄選別により安定的な収益を目指します。

【バリエーション】

＜ファンド運用状況＞

9月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.65%となりました。円安の進行を受けて自動車セクターのロングポジションを増やしたことや、食料品・トイレットリーなどのディフェンシブセクターを中心に割安・割高の修正があったことがプラスの要因となりました。一方で、TOPIX浮動株比率予想ポジションで自動車や機械セクターのショートの比率が高かったことからマイナスとなりました。

セクター別の損益は、輸送用機器、サービス、食品、化学セクターでプラスとなり、不動産、建設、機械セクターでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

10月の株式市場は米国株に高値警戒感が強まっていることや、国内のマクロ指標が依然として弱いことから利益確定売りに押される展開を想定します。しかし、追加金融緩和及びGPIF改革に対する期待や、円安進行により輸出関連株を中心に業績改善余地が大きいことから、下値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定的な収益の獲得を目指します。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**